

22．国際人的移動に関する調査報告書

最近の国際的な人口移動の増加は、経済社会に与える影響の重大性から、国際的な関心分野のひとつである。

経済活動のグローバル化の進展によって、21世紀は「貿易」、「投資」に続く「第3の波」としての国際間の「人」の動きが、ますます重要性を増していくと見込まれている。

そこで、国際人的移動に関する調査を実施することとし、初年度の平成14年度では、労働移動に関し人材の派遣側、受け入れ側でかかえる課題や外国人専門家などの就業上の問題について、事例研究を行った。ドイツにおける移民問題、米国における専門的職業人の就労ビザ、外国人労働者数が自国民より多い国の事例としてアラブ首長国連邦を取り上げた。